

9:6 ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。

#### ＜説教＞

まず先主日礼拝説教原稿中の間違いを訂正します。「永遠の父」の説明のところに、「私たちを見捨てず、あわれみ愛してご自身をこの世にお遣わしになった天の父なる神とイエスは永遠に一つのお方」とありましたが、その中の「ご自身を」は誤りで、「ご自身のひとり子（イエス）を」が正です。

先主日は、キリスト預言のひとつであるイザヤ書9章6～7節の6節から学びました。「私たちのために生まれてくださったひとりのみどりご」、天の父なる神から「私たちに与えられたひとりの男の子」キリスト・イエスは、天の父なる神のひとり子、御子であり、それ故に神なるお方です。御父とともに天地万物をお造りになり、ご支配し、おさばきになる「主権がその肩にある」お方です。〈天においても地においても、すべての権威が与えられて〉いるお方です（マタイ28:18）。〈初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかつた〉（ヨハネ1:1-3）。このように、イエスは神であり、また「神のことば」なるお方です。

イエスはご自身（のみことばとみわざ）を、福音を私たちに教え、助け、導き、罪から救ってくださるお方です。私たちが最高の感謝と讃美をもってそのみことばを聞き、従い、礼拝を獻げるべきお方です。そういう、私たちのための驚くべき〈不思議な助言者〉です。

イエスはご自分をこの地上にお遣わしになり、生まれさせなさった父なる神の御意思（みこころ）に完全にお従いになり、〈十字架の死にまで従われ〉（ピリピ2:8）、私たちのために〈私たちの罪をその身に負われ〉（Iペテロ2:24）ました。そして復活し、死と罪と悪魔に完全に勝利し、私たちをもご自分の勝利に与らせてくださいます。そうやって神のみこころを完全に実現なさる〈力ある神〉です。

そのようにイエスはご自分の父なる神と永遠に一つなるお方であり〈永遠の父〉と呼ばれれます。

イエスは私たちを、ご自分の〈十字架によって神と和解させ〉（エペソ2:16）てくださいました。それゆえに私たちは〈私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています〉（ローマ5:1）。この〈神との平和を持っている〉平安、〈キリストの平和〉（コロサイ3:15）で私たちの心をキリストが支配し、指導し、監督してくださいます。そのようにして私たちは〈神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、深い慈愛の心、親切、謙遜、柔軟、寛容を着〉（コロサイ3:12）て、隣人を愛して、平和を造る者へと召されているのです。そういう私たちのための〈平和の君〉がイエスなのです。

そんなイエス・キリストを〈私たちのために〉生まれさせ、〈私たちに〉与えてくださる〈万軍の主〉なる神の私たちへの愛は永遠に変わらず、それゆえにイエスの主権的ご支配もキリストの平和も永遠に続きます。それでイザヤは続けて言いました。〈その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる〉(イザヤ 9:7)。

後に御使いガブリエルはマリアに告げました。〈その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。〉(ルカ 1:32-33)。ガブリエルはあのイザヤの預言はマリアが身ごもり産むことになる男の子イエスのことを言っているのだと説き明かしたわけです。

かつて預言者ナタンを通して神はダビデに約束なさいました。「わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる」(IIサムエル 7:12)。

「あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ」(同 7:16)。ダビデの身から出る子とは直接にはソロモンのことですが、ソロモンも罪を犯し、その息子レハブアムの時代に王国は北王国イスラエルと南王国ユダに分裂します。そしてまず北イスラエルがその罪の故に滅ぼされ、ダビデ王国の直系とも言える南ユダも同じくその罪の故に滅ぼされます。しかし神の約束は変わりません。神はダビデの子孫から〈ダビデの子〉(マタイ 1:1)として〈ひとりの男の子〉イエスを生まれさせました。そのイエスが「神の民の王国」の王として〈ダビデの王座に就いて、その王国を治め〉のです。ダビデの王国さえ王を始めとする人間の罪の故に揺るぎ、滅びました。ただの人間(罪人)の王が支配する国はどんなに栄えても、いつかは滅びます。なぜなら人間の「さばき(裁判)」はいつも正しいわけではなく、また人間の振りかざす「正義」もいつも正しいわけではないからです。しかしイエスは神の法律(律法)に完全にかなう完全な〈さばき〉をし、かつ神の法律を正しく完全に執行し(つまり「正義」を行い)ます。そうやってイエスは「キリストの王国」を完全に〈堅く立て〉〈支え〉ます。イエスはご自分が語り教えた神のことば、神のみこころを完全に実行し、ご自分の支配、神の支配をご自分の王国の隅々にまで及ぼされます。人間の罪ではなく神の御子の〈さばきと正義〉が王国を支配するゆえに神の祝福によって〈今よりとこしえまで〉永遠に続くのです。

イザヤが目の当たりにしていた「ダビデ王国」の状態は悲惨なものでした。神への信仰は風前の灯火となり、多くの人々は悪魔と罪に支配されていました。権力と暴力と金の力が全てであり、強者が弱者を支配し虐げていました。〈さばきと正義〉は曲げられていました。そんな人間の罪を指摘し、神への立ち返り・悔い改めを呼びかけつつイザヤはご自分の約束、契約に真実で忠実で必ず実行なさる神に希望を置いていました。その神が自分たちに与えてくださる〈ひとりのみどりご〉〈ひとりの男の子〉が王として治める「キリスト王国」をイザヤは「神との平和」「キリストの平和」の心で見ていました。それは〈万軍の主〉なる神への、そして〈ひとりのみどりご〉なるキリスト、イエスへの信頼、信仰の心の目と言えるでしょう。〈万軍の主の熱心がこれを成し遂げる〉。成し遂げるのは罪ある人間ではなく〈万軍の主〉なる神です。どんな人間よりも、悪魔よりも断然強い神が、

神の御子が行います。悪魔も人間もその邪魔はしますが、止めることはできません。〈熱心〉とは「ねたみ」とも訳されます。つまり罪人である私たちを愛して止まない神の燃える激しい愛です。それが「ひとり子を私たちにお与えになったほどに愛された」愛です (cf. ヨハネ 3:16)。〈ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる〉。神がそうなさるのは罪深い私たちへの激しい愛の故、私たちを罪と死から救おうという切なる、聖なる願いの故です。そして生まれる御子イエスにはその神のみこころを行い、私たち神の民に対するご自分の支配を私たちに〈今よりとこしえまで〉成し遂げる力と強さがあるのです。そんな空前絶後の希望、喜びをイザヤは見たのです。